

科目	環境生態 (Ecology of Land Plants)		
担当教員	宇野 宏司 講師		
対象学年等	都市工学科・5年・前期・必修・2単位 (学修単位II)		
学習・教育目標	A2(100%)	JABEE基準1(1)	(c),(d)1
授業の概要と方針	都市工学において、環境問題への取り組みや生態系への配慮はなくてはならないものになっている。本講義では、生態学と都市工学の境界領域における基礎知識、技術体系について学ぶことを目的とする。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A2】生態系の機能について理解できる。		生態系の機能について理解できているかどうか、中間試験で評価する。
2	【A2】生態系の生物要素、食物連鎖について理解できる。		生態系の生物要素、食物連鎖について理解できているかどうか、中間試験で評価する。
3	【A2】生物群集、個体群について理解できる。		生物群集、個体群について理解できているかどうか、中間試験で評価する。
4	【A2】生物多様性の重要性について理解できる。		生物多様性の重要性について理解できているかどうか、中間試験で評価する。
5	【A2】ピオトープの機能について理解できる。		ピオトープの機能について理解できているかどうか、中間試験で評価する。
6	【A2】各種生態系の機能と役割について理解できる。		各種生態系の機能と役割について理解できているかどうか、定期試験で評価する。
7	【A2】生物圏と人間活動の関わりについて理解できる。		生物圏と人間活動の関わりについて理解できているかどうか、定期試験で評価する。
8	【A2】環境保全に関する時事問題について自分の意見を述べるができる。		環境保全に関する時事問題について自分の意見を述べるができるかどうか、レポートで評価する。
9			
10			
総合評価	成績は、試験85%、レポート15%として評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「生態と環境」：松本忠夫（岩波書店）		
参考書	「生物保全の生態学」：鷲谷いづみ（共立出版） 「保全生物学」：樋口広芳（東京大学出版会） 「ゼロからわかる生態学」：松田裕之（共立出版） 「環境保全・創出のための生態工学」（丸善） 「環境問題へのアプローチ」：有田正光・編（東京電機大学出版局）		
関連科目	生物（S3）、環境基礎化学（S4）		
履修上の注意事項			

